

景気判断、改善足踏み

景気がわかる

月例報告、雇用悪化に懸念 天候不順やインフル影響 消費に暗雲

月例経済報告の判断 (前月報告と比べ、△は上方修正、▼は下方修正)	
個人消費	このところ持ち直しの動き
輸出	持ち直している
生産	持ち直している
企業収益	大幅な減少が続いているがテンポは緩やかに
設備投資	減少している
雇用	一段と厳しさを増している

■景気は「持ち直しの動き」だが……月例経済報告は5月から3カ月連続で上方修正し、6月には「景気底打ち」も宣言した。生産や輸出が持ち直し、4～6月期の実質国内総生産(GDP)が5四半期ぶりにプラスに転じた。9月の月例報告の基調判断は「厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる」と

街角景気判断の判断指数	
先行き	50
現状	40
2007年	30
08	20
09	10



据え置き。ただ「失業率が過去最高水準となるなど」との表現を加えて雇用情勢に懸念を表明。先行きについても「一層の悪化が懸念される」と強い警戒感を示した。

■失業率6%に迫るとの見方 市場では失業率が来年にかけてさらに悪化するとの見方が強まっている。内閣府の外郭団体「経済企画協会」が8日まとめた民間約40社の予測平均では、失業率は7～9月期が5・7%、10～12月期には5・8%と高まり、来年1～3月には5・9%まで上昇する。これは予測の平均値で、年内に6%を超えるとの見方もある。

月例報告では企業収益が緩やかに回復しているとの見方が強まっている。内閣府が小売店主やタクシー運転手ら約2千人に聞いた8月の景気ウオッチャー調査では、景気の実感を示す「街角景気」の現状判断指数が前月より0・7ポイント低い41・7、8カ月ぶりに低下した。

小売店や飲食店など家計関連部門は1・1ポイント下落。天候不順で夏物衣料の動きが低迷(東北の衣料品専門店)、「新型インフル」の流行などで旅行が変更や中止になるケースが続発(北陸の旅行会社)といった指摘が多い。

は不透明になる(東北の建設業)との声があったほか、「ハイブリッド車の受注に陰りが出ている(北陸の乗用車販売店)との指摘も。

国内景気は7～9月期もプラス成長を続けるとの見方が多い。ただ原動力は公共投資などの政策効果とアジア向けなど輸出の改善。雇用悪化と消費の低迷が長引けば、国内の民需を軸にした自律回復は遅れそうだ。